



親の愛

ゲンデンスレン アズザヤ
GENDENSUREN AZZAYA

私は実習生になる前、日本で暮らしていた事があります。今から5年前、私は高校での3年間を日本で送りました。1、2年の時は楽しくて、時間がとても早く過ぎました。しかし、やはり心の隅にはモンゴルを恋しく思う気持ちがあって、3年生の1年間は早く時間が経ってほしいと思っていました。

3年生の夏休み、私は老人ホームへお年寄りと交流をしに行きました。老人ホームへ来たのは初めてでした。私のおばあさんよりも年上の人がほとんどで、中には100歳の誕生日をお祝いしている人もいました。

私が来た事を喜んでくれる人がたくさんいて、私も嬉しく思っていました。交流を続けるにつれて、ひとつの疑問が浮かびました。お年寄りたちは、どうしてここにいるのか、という事です。子供がいる人なのに、家族とではなく老人ホームで暮らしているひとが多いです。どうして、子供が親の面倒を見てあげないのでしょうか。私だったら、親とずっとそばに居てあげたいと思います。

ある日、私に毎日話しかけてくれていたおばあさんが、いつもどおり私に声をかけてくれました。私を見て「孫に会いたくなかった」と言っていたので思い切って疑問に思っていたことを聞いてみました。すると、おばあさんは「年をとった私は、子供たちに何もしてあげられない

から、邪魔にならないほうが良いと思ってここに来たの。」と、涙を流しながらも、笑顔を崩さずに私に答えてくれました。それを聞いて、私は親ってすごいなと思えて涙が出て来ました。親は生まれた時からずっとそばに居てくれて、何も知らない私に全部を教えてくださいました。なのに、私たちから何も欲しがらずに、元気にいてくれれば良いと思ってきています。自分よりも子供のことを考えてくれる、神様みたいだと思います。

おばあさんと話をした後、すぐに親に電話して「大好きだよ」と伝えました。親はすごく喜んでいました。

2週間だけの短い期間だけでしたが、そのおばあさんの事を一生忘れられないと思います。親は、私たちに命をくれた神様です。いつも私たちを守ってくれる大切な人です。だから私たちも、親を大切にしないといけないと思います。親は一人しかいない、かけがえのない存在なのですから。